編　集　後　記

少し遅くなりましたが，Vol. 15，No. 1 を発刊いたします。Vol. 15 からは 8 月と 2 月に電子媒体で発刊することにし，冊子体は総説を中心に数年に 1 回発刊する方針で考えています。

さて，Vol. 14，No. 2 の編集後記でも述べましたが，環境バイオテクノロジー学会は，1999 年 7 月に設立されて今年で 16 年になります。この間，大学の研究教育環境は大きく変動し，特に地方大学では研究がやりにくい環境になってきています。そのような中で，どのように学生を教育し，成果を挙げていくのか？巻頭言の野尻先生の提言のように，生き残りをかけた自問自答が続きます。

環境バイオテクノロジーという学問分野に限っていえば，解析手法が目覚しい勢いで発展し，革新的データが得られる状況になっています。特に，次世代シーケンサを用いたゲノムや転写解析の情報から，環境微生物の挙動や役割の理解がすごい勢いで進んでいます。これらの研究を，さらに高いレベルに上げるためには，1 研究者だけではなく，様々な切り口を持った研究者が一丸となって解析することも必要になっています。本学会の会員の皆様が，学会横断的に革新的解析を行う中心となるセンスを磨く場となるように，今後も努力いたします。

本会誌は今後電子媒体となりますが，会員の皆様のご協力の下，より良い雑誌にしたいと考えておりますので，今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

環境バイオテクノロジー学会誌編集委員長　金原和秀